名城同窓会ニュース

令和4年3月1日発行
第46号
発行者　後藤　健太郎

名城大学附属高等学校同窓会　〒453-0031 名古屋市中村区新富町1-3-16 TEL〈052〉481-7436

コロナ禍を乗り越えて…

2年ぶりに文化祭開催!!

目 次

●ご挨拶 …… 2
●同窓会役員(第16期)紹介 …… 3
●受章者(令和3年秋の叙勲)紹介 …… 3
●新谷啓治同窓会名誉会長を偲ぶ …… 3
◆トピックス(行事)
名城オリンピック …… 4
文化祭 …… 4
◆トピックス(教育)
次世代リーダー講座 …… 5
SSH生徒研究発表会 …… 5
◆部活動等報告
ウエイトリフティング部 …… 6
スキー部 …… 7
ダンス部 …… 7
柔道部 …… 8
体操競技部 …… 8
陸上競技部 …… 9
レスリング …… 9
●新任教諭紹介 …… 10
●退任教諭紹介 …… 10
●物故者 …… 10
●名城大学附属高等学校ゆかりの物品 …… 11
●名城大学教育振興資金−名城サポーターズ募金− 11

ご 挨 拶

名城大学附属高等学校同窓会
会長　後　藤　健太郎

このたび、3期12年に亘り、同窓会の運営と発展にご尽力くださいました武村學前会長のあとをうけ、令和3年4月より会長に就任しました後藤健太郎でございます。

会員の皆さま方におかれましては、平素より同窓会活動にご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。また、今年度、新規に同窓会へ入会されました卒業生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。

この3年間で、附属高校の教育目的である「知・徳・体」の調和する人格教育により、穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材として育成され、礼節を重んじ、主体的な行動力を養い、多様な経験を積むことで、しっかりと学習活動・部活動等の文武両面において励んでいただいたと思います。

4万8千名を超える同窓生の一員として、今後の皆さまのご活躍に期待をしております。そして、大学生、社会人として大いに飛躍していただくことを祈念いたします。

さて、一昨年ほど前から続く、新型コロナウイルスによる影響で、同窓会活動も制限を余儀なくされ、イベントなども思うように開催できていないのが実状です。これを機に同窓会のあり方についても時代の変化に対応し、パラダイムシフトとイノベーションをおこしていかなければならないのかもしれません。

令和8年には、開学100周年記念事業が控えております。これに向けての事業の一環として毎年開催する文化講演会をはじめ、会員増強と同窓生の絆を深めるための数々の行事を企画・運営して参りたいと思っております。この一連の事業を実現、成功に導くためには、一人でも多くの卒業生のご理解とご協力が必要不可欠です。

ぜひとも、同窓会事業への積極的なご参加をお待ちしております。また、ご友人や知人で附属高校の卒業生がいらっしゃれば、お声がけも併せてお願いできれば幸いでございます。

最後になりますが、名城大学附属高等学校と同窓会の益々の発展のため、同窓会役員一同、努めて参りますので、今後も末永く、会員の皆さま方のご支援を賜りますよう、何卒、よろしくお願い申し上げます。

【第16期　同窓会役員名簿】

役職名	氏　名
名誉会長	中　島　　健
名誉会長	武　村　　學
会　　長	後　藤　健太郎
副会長	日　置　慎　二
副会長	福　江　美智子
監　　査	鎌　田　直　洋
監　　査	近　藤　千　春
学内幹事（会計）	安　藤　真　依
学内幹事（庶務）	藤　原　和　人

同窓会役員（第16期）紹介

令和3年4月1日から、第16期の同窓会役員が、選任されました。

（後列左から）鎌田監査、近藤監査
（前列左から）日置副会長、後藤会長、福江副会長

受章者（令和3年秋の叙勲）紹介

令和3年秋の叙勲において、附属高校卒業生〔第12回生〕で、元附属高校教員である堀尾雅明氏（80歳）が、旭日單光章を受章されました。これは、長年に亘り体操競技の普及、発展に努め、選手育成に尽力されたこと、および愛知体操協会副会長としての功績に対して授与されたものです。同窓会会員一同、心からお慶び申し上げます。

新谷啓治同窓会名誉会長を偲ぶ

新谷啓治名誉会長は、附属高校第2回生の卒業生でいらっしゃいます。卒業後は、名城大学に進学され、昭和38年には同窓会第2代会長に34歳の若さで就任されました。同窓会は、新谷会長のもとで本格的に活動が開始されました。同窓会名簿の発刊、校舎建築に対しての寄付、創立者故田中壽一先生の胸像の建立、寄贈など、平成17年まで40年以上の長きに亘り、母校の発展に多大な功績を残されました。名誉会長となられてからも、その母校愛は厚く、文化祭時に同窓会企画があれば最愛の奥様と共にご来校され、後輩達にエールを送っていただきました。慈愛に満ちた笑顔と共に津島名物「あかだ、くつわ」の差し入れをしていただいたことも忘れられない思い出の一コマです。令和3年8月13日、ご家族の方々に見守られ冥途に旅立たれました。享年93歳でした。同窓生一同、心よりご冥福をお祈りいたします。

名城オリンピック

令和３年度は昨年同様、コロナ禍での学校行事となり、名城オリンピックは１日１試合と規模が縮小されましたが、生徒会代議員や文化祭実行委員など、多くの生徒の協力によって、無事開催されました。同窓会は、名城オリンピックで輝く生徒を応援するため、今年も、熱中症対策用のスポーツドリンクを、在校生全員へ贈呈しました。

名城オリンピックの全勝クラスは、1S3、2A2、2A6、2A13、2S2、3A5、3S2 の７クラスでした。

文　化　祭

昨年はコロナ禍のため開催を見送った学校行事の一つであった文化祭。今年度は 10月に延期となりましたが、2年ぶりに無事開催されました。

コロナ対策として外来者の入場を許可しない開催としたため、同窓会企画の実施はしておりませんが、在校生にとっては、思い出に残る行事の一つになりました。

文化祭　名城グランプリ

最優秀賞	1A10	「明るい未来～collapsing planet of water～」		
優秀賞	2S 2	「脱出ゲーム」	3S 1	「害怕鬼屋」
	2A14	「Harry Potter」		
審査員特別賞	2A 3	「エコライド」	2S 3	「Meijo Disney Land」
	1A 2	「宇宙の聖灯祭」	1A12	「それいけ！パルティアン！」

＊表紙の写真は全て附属高校写真部が撮影したものです。

次世代リーダー講座

全校生徒を対象に自由参加で行われ、学年、科、コースの枠を超え協働して考え行動していくことを目的とした「次世代リーダー講座」が実施されました。

10 月 28 日に行われた 1 回目の講座は、名城大学外国語学部の冨岡徹先生による「スポーツを通した国際理解」をテーマに、文化と同様、体の動かし方も欧米と日本で異なることを学びました。生徒からは「この講座を受けなかったら、習慣や癖における潜在意識には気づかなかった」、「自分の好きなピアノの演奏をとっても、ヨーロッパの演奏家は音を反響させながら奏で、日本では初めの 1 音を大切にする聴かせ方をする。縮まっていく日本人と広がっていく西洋人の定義にフィットすると思った」、「西洋人との歩き方の違いを聞いて、毎日必ず行う歩くという動作を大切にしたい」、「バスケットボールをやっているので、プレーの中で西洋人の特徴である伸筋優位を意識したい」など、自分の生活と結びつけながら、楽しんで学んだ様子が見られました。

11 月 19 日に行われた 2 回目の講座は、名古屋芸術大学芸術学部の水内智英先生から「未来を共に創るためのデザイン」をテーマに、デザインは全てのものになされており、デザインで人が繋がることができることを学びました。「全てのものがデザインされていることを意識すると、今まで当たり前だった身の回りのものの色や形の工夫に気づくことができ、社会課題とデザインの繋がりが見えてきた」、「プロジェクトを展開して、その中で人々の関係を作っていくことを私もできるようになりたい。何でも楽しみながら協力してチャレンジすることを大切にしたい」、「『大事なのは結果じゃなくてやり方』っていう言葉を心にとどめて『やり方』に想像力を持たせていきたい！」など、参加生徒の感想からは自身のキャリア形成に繋げて考えた様子がうかがえました。

今後、3 回目となる、椙山女学園大学文化情報学部メディア情報学科の木田勇輔先生による「ソーシャルメディアで人は幸せになれるか？―『つながり』から社会を考える」を実施します。

SSH生徒研究発表会

8 月 4 日、5 日の 2 日間、神戸国際展示場において全国からスーパーサイエンスハイスクール指定校および指定経験のある学校 200 校以上が集い、令和 3 年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会が開催されました。

附属高校からは代表者として「開法の拡張」というテーマで普通科スーパーサイエンスクラス 3 年生の三栖夕奈さんが発表を行いました。新型コロナウイルスの影響で昨年は休校期間があり、満足のいく研究時間が確保できない中、1 年間、真摯に研究に向き合ってきました。

また発表会当日は同年代同士で刺激し合い、活発に議論し合う姿が見られました。自身の研究を一層発展させる糸口と意欲を得られた会に参加できたことは良い経験になったことと思います。

全国大会等に出場した部活動等報告

ウエイトリフティング部

◆令和2年度全国高等学校選抜大会　出場（望月将史）
◆令和3年度全国高等学校総合体育大会　出場（近藤祥大、杉本澪音、日比晴太、望月将史、永井暖乃）

『No pain,no gain』

普通科3年　望月　将史

「痛みなくして得るものなし」この言葉は顧問である山中先生が私達によく仰っていた言葉です。重量挙げという競技は少なからず痛みを伴う競技です。その痛みに3年間向き合ったことで私は多くのものを得ました。

私がこの競技に関わることになったきっかけは先輩方からの勧誘でした。当初、私はウエイトリフティング部に入る気などなく、見学に行ったのはただの好奇心でした。しかし、先輩方に誘われ、体験で一緒に練習するうちに、いつの間にか私は入部することを決めていました。

私は最初、毎日練習で筋肉痛になる度に「なぜこの部活動に入ったのだろう」と思っていました。それでも、自己ベストを更新するのが楽しいので部活動を辞めたりせず、練習を続けることができました。そして筋肉痛が気にならなくなった頃には、私は以前の私では考えられないくらい重い重量を扱えるようになっていました。自分の成長を自覚した時、私は先生が以前から仰っていた「痛みなくして得るものなし」という言葉を本当の意味で理解することができたのかもしれません。

それから私はこの「No pain,no gain」という言葉を信じ、練習を重ねました。怪我をして練習ができず辛いと思う気持ちも執念へと変え、練習にひたすら取り組みました。そして3年間痛みと向き合い努力したことで、苦楽を共にする仲間や苦しい時も前を向いて進むことができる強さを私は手に入れていました。今までサポートしてくださった人達に恩返しをするためにも、この「No pain,no gain」という言葉を胸に、更に頑張りたいです。

『出会い』

普通科3年　日比　晴太

ウエイトリフティングは「スナッチ」、「クリーン＆ジャーク」の2種目からなり、簡単に言ってしまえば、重たい重量を挙げた人が勝つ競技です。しかし、挙げるという単純な行為の中に細やかな技術が無数に詰まっています。その技術を身に付けるために日々努力をし、自己新記録が更新された時には、これまでにない達成感が感じられます。それがウエイトリフティングの醍醐味だと思っています。

インターハイ、この目標に向かって2年半努力を重ねてきました。「マッチョになりたい」最初はそれだけの理由でこの部活動に入部し、競技のこともよく知らない私に、山中先生や先輩方は丁寧に教えてくださいました。練習をしていく中で、インターハイで良い成績を残したいという目標ができました。

「運命を変えるにはまず行動から」、「苦しみなくして得るものなし」、「愚直さ」など、山中先生や道場から学んだ言葉はたくさんあります。入部したての頃は漠然としたイメージしか湧きませんでした。しかし、2年半のうちにその言葉の意味がわかったような気がします。練習はとても苦しく、楽しい時間より苦しい時間の方が多かったように思いますが、それを仲間と乗り越えたからこそ今の自分があると思います。背だけが高く貧弱だった体は、筋肉がつき体重が10kg増えたため、見た目も大きく変わりました。継続すること、愚直に続けることの大切さと難しさを学びました。3年生でインターハイに出場することができました。ウエイトリフティング人生最後の試技は失敗しましたが、終わった瞬間に不思議な達成感と幸福感を味わいました。これは、今まで努力を積み重ねたからこそ味わえたのかもしれません。

最後になりますが、山中先生とウエイトリフティングをはじめとする色々な出会いに感謝をして、次のステップに進みたいと思います。

スキー部

◆令和2年度全国高等学校総合体育大会　出場
（林彩花・五十嵐歩冬・山本花鈴・小澤駿佑・鈴木想助・江嶋祐衣・加藤綾）

『変わった部活動』

普通科3年　五十嵐　歩冬

スキー部は変わった部活動だ、と思っている人は多いと思います。僕もそう思います。ですが、そんなスキー部に僕は入って良かったと思います。

僕はスキー部に入り、今までになかった様々なことを経験しました。「スキーができる人は何でもできる」ということで、フリスビーの練習やアイススケートの練習、年に2回登山もしました。冬休みは大晦日と正月以外の日は全て合宿で、雪山に篭り練習に明け暮れました。合宿では、部活動の仲間と共に長い期間一緒に過ごし、楽しい思い出や辛い思い出がたくさんでき、何より深い絆ができました。決して楽しい思い出だけではないのですが、こういった経験も今となってはかけがえのない思い出であり、自分を成長させてくれた要因の1つだと思います。

また、スキー部を通して、ただの高校生ではなく、選手として自分を認識するようになり、日常の中ですらスキーのことを考えるようになり、日々の練習では誰よりも考え、誰よりも多く練習をしようと思い、日々の練習に取り組んできました。高校1年生の冬、新型コロナの影響で合宿が中止になり、練習時間が短縮し、練習が思うようにいかなかったり、大変なことが様々ありました。ですが、その中でも練習の質を高め、新たなことにも挑戦し、少ない練習量になっても努力を諦めず、一年中冬に向けて一心不乱に努力を積み重ねた結果インターハイに出場することができ、インターハイで自己最高記録を出すことができました。

このように、こんな変わったスキー部に入ったおかげで、選手として、人として成長できました。それは、部活動の仲間であったり、顧問の先生方やコーチ、家族、行先で出会った人々の支えがあったからでもあります。本当にありがとうございました。

ダンス部

◆USA Nationals 2021　団体出場

『大切な出会い』

普通科3年　長岡　美佑

私達ダンス部は、夏の全国高等学校ダンスドリル選手権大会、冬のschool&college　Nationalsの2つの大会で全国優勝を目指して日々練習に取り組んでいます。ダンスの技術を向上させることに加え、礼儀など社会生活において大切なことも学ぶことができます。

私は、まとめる側に立って練習をする中で、多くの仲間を引っ張っていくために大切なことを学び、決断力や自主的な行動力など、自分に足りていなかった力を成長させることができました。また、たくさんの人に支えてもらっているということを実感し、仲間の大切さも学びました。コロナウイルスの流行によって思うように活動できない時期が続くこともありましたが、同じ場所で一緒に練習をすることが当たり前ではないということに気づかされました。練習を再開して久しぶりに一緒に踊った時の喜びは、今でも印象に残っています。

私達が最後に出場した大会であるschool&college　Nationalsは先輩方と踊れる最後の大会でもありました。チーム全体で全国大会に向けた目標を揃え、みんなで踊れることの幸せを今まで以上に感じながら練習した日々は、充実したものになりました。全国優勝という目標には届きませんでしたが、先輩方の背中を追いながら練習したことは大切な経験になりました。しかし、積極的に前に立って行動し、引っ張っていくことができていない自分に落ち込むことが多くありました。それでも最後まで続けることができたのは、応援してくれた家族や指導してくださった先生方、不安そうな顔を見るとすぐ声を掛けてくださった先輩方、明るい声で練習を盛り上げてくれる後輩達などたくさんの支えがあったからです。そして入部してからずっと一緒に練習をしてきた同期は何よりも大きな存在でした。大切な仲間や先生方に出会い、大好きなダンスをしながら過ごした2年半はとても幸せでした。これからも人との出会いを大切にし、積極的に学ぶ姿勢を持ち続けていきたいです。

柔道部

◆令和3年度全国高等学校総合体育大会　男子個人66kg級出場（梅屋丞生）

『インターハイにかけた想い』

普通科3年　梅屋　丞生

中学時代は全国大会二回戦負け。体も弱く技も少なかった僕でしたが、柔道部の監督である松下先生の熱い言葉に心動かされ、名城大学附属高等学校で柔道をやることを決意しました。

そして、松下先生を絶対日本一の監督にすると約束し、練習してきました。全国制覇を目指し練習する中で非常に多くの課題や壁に直面しました。その度に、先生に的確なアドバイスをもらったり、強い人の動画を見て研究したり、仲間と話し合ったりして、一つ一つ乗り越えてきました。また学校での練習が終わった後には大学や道場に出向いて練習をしたり、柔術を習いに行ったりして目標達成のためにできる限りのことをやってきました。

そうした練習ができたのは、朝早くから出て、夜遅くに帰ってくる僕を、何の不自由もないようにサポートしてくれた両親のおかげでした。

インターハイでは中学校最後の戦いで敗れた相手と戦うこととなりました。大会前日は緊張と不安でいっぱいでした。そんな時に、コーチである川松先生が現地に駆けつけてくれて、練習をしてくれたり、柔道部全員からの応援動画が送られてきた時は、本当に心強く、とても嬉しかったです。ほかにもたくさんの人からの応援メッセージが届き、自分はずっとみんなに支えられてきたことを思い出し、戦う覚悟が決まりました。勝って松下先生と一緒に日本一になるという約束を果たし、今まで支えてもらった人に恩返しがしたかったですが、あと一歩届きませんでした。

インターハイにかけた思いは本当に大きく、自分だけのものではありませんでした。その分負けてしまったのは、本当に悔しかったです。それでも、この3年間勝つために先生や仲間と必死に試行錯誤して共に戦ってきたのは僕にとっては何物にも代えがたい経験で、何よりも楽しかったです。

こんなに素晴らしい先生や仲間と一緒に柔道ができて、僕は本当に幸せでした。3年間ありがとうございました。

体操競技部

◆令和3年度全国高等学校総合体育大会　団体出場（野村将吾、馬場慧朗、中村貫太、藤木大智）
個人出場（倉田晃利、山下蒼斗）

『感謝』

普通科3年　倉田　晃利

「名城大学附属高等学校の体操競技部に所属してインターハイで活躍したい」と小学生の頃に思い、静岡県の練習場に合宿に来ていた顧問の西村先生のもとに自分の意思を伝えに行った時のことを、今でも鮮明に覚えています。そう意気込んでいたものの、愛知県外から学校に通う僕には知っている人がいなかったため、どんな高校生活になるのか正直不安でした。しかし、先輩方が積極的に話しかけてくれて、新しく取り組んでいる技のアドバイスや学校生活に至るまで様々な面で支えてくれました。また、先輩方がこのように接してくださったことにより、人に対する感謝の気持ち、自分から行動を起こすことの大切さを学ぶことができました。僕もそのような先輩になりたくて後輩ができてからは、一人一人と積極的にコミュニケーションをとり相談に乗ることを心掛けてきました。

1年生、2年生とインターハイに出場することができず、3年生の最後のチャンスと思っていたインターハイ予選会の前に手首を捻挫してしまい、技の難度を落として試合に臨まなくてはいけない状態になってしまいました。一時はもう諦めて受験勉強に入った方が良いのではないかと悩んだこともあります。しかし、めげずに練習したことで予選会では、技をミスすることなく自身の最高点を獲得し、インターハイへの切符を掴むことができました。周りの方々の応援がなければ、きっとこのような結果にはなっていなかったと思います。インターハイの結果は、あまり満足したものではありませんでしたが、チーム一丸となって試合ができたのは、いつも一緒に練習してきた仲間のおかげだと思います。ここで学んだことを生かして、これからも目標に向かって歩み続けたいと思います。

顧問の西村先生や副顧問の堀尾先生の的確な指導、切磋琢磨できる仲間との練習、家族の協力や同窓会のご支援など、周りの環境に恵まれて充実した時間を過ごすことができました。3年間ありがとうございました。

陸上競技部

◆令和3年度全国高等学校総合体育大会　出場（柴田菜那、神田彩名）

『仲間の大切さと感謝の気持ち』

総合学科3年　柴田　菜那

私は走幅跳という競技をしており、2年生までは記録も伸びずに悩んでいました。3年生で頑張ることができたのは、仲間の存在です。きつい練習を一緒にやれたり、喜んだり悔しがったりできる仲間、どんな時にも、しっかり向き合ってくれる先生、支えてくれる家族、本当にたくさんの人のおかげで、インターハイに出場することができました。結果は、決勝で11位でしたが、陸上を通じてたくさんの人に出会い、本当の楽しさを知ることができました。陸上をやってきて良かったと実感しています。

総合学科3年　神田　彩名

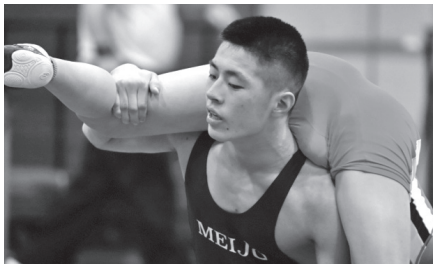
私が陸上を8年間も続けてこられたのは、試合で記録を更新した時の喜びや、走りきった達成感をもう一度、味わいたいからだと思います。母から「陸上をとりあげられたら、何が残るの」と言われ返す言葉もなく辛いこともありました。コロナ禍で練習できない時期も乗り越えて、インターハイ出場を果たすことができました。誰よりも近くで支えてくれた家族、真摯に向き合ってくれた先生、陸上を通じて出会い、関わった全ての人に感謝の気持ちを伝えたいです。

普通科3年　林　　杏茄

私達陸上競技部は、日々努力し、20年連続の全国大会出場を達成しました。チームのジャージには、「可能性は無限大」の文字が刻まれています。部員が同じ目標に向かって進んだからと思います。私が全国の舞台を踏めたのは、1年生の時、東海大会で3位に入り、コーチや先生と嬉し涙を流したのを今でも鮮明に覚えています。コロナ禍で2年、3年と上手く練習もできませんでしたが、3年生の最後に100mで歴代名城記録を作ることができました。陸上は個人競技ですが、団体競技でもあります。仲間や先生がいないと強くなれないし、応援もないとベスト記録も出ません。今まで支えてくれた両親、一緒に頑張ってきた仲間、自分のことをいつも考えてくれた先生に感謝の気持ちでいっぱいです。先生と仲間は私にとって一生の宝ものです。この経験を生かして大学でも頑張りたいです。3年間本当にありがとうございました。

レスリング

◆令和3年度全国高等学校総合体育大会　出場（藤井海志）



『チャンスを逃さない』

普通科3年　藤井　海志

レスリングとは、直径9メートルのマットの上でタックルや投げ技を通して相手を倒すなどしてポイントを取ったり、相手の両肩を同時にマットにつけることで勝敗を決めるスポーツです。腰から下を攻めてはいけないグレコローマンスタイルと、その制限がないフリースタイルというものがあります。私はこの夏、後者のフリースタイル60kg級でインターハイに出場しました。

結果としてはテクニカルフォール、10点差を付けられて負けてしまいました。マットが地べたではなく少し高い場所に設置されているなど、慣れない環境での試合はいつも以上の緊張感があり、終始ぎごちない動きをしていたのではないかと思います。しかし、その状況でも、果敢に攻めていく自分なりのレスリングをすることはできたと感じています。

実は大会前、今回のインターハイ予選に出るかどうか迷っていました。受験生ということもあり、志望校に向けて勉強を頑張らないといけないのにも関わらず、練習も思うようにできていないレスリングの大会に出て、全てが中途半端になってしまったらどうしよう、という思いがあり、とても悩んでいました。その時両親に、「あとで後悔しないように、今しかできないことは今やっておきなさい」と言われ、「インターハイに出るチャンスはもうこれで最後なんだ。このチャンスを逃したくない」と思い、出場を決めました。

そこからは気持ちを切り替えて、他校の練習にも参加させてもらうなどして練習時間を増やしていきました。他の学校の選手よりも練習時間は少なかったかもしれないけれど、予選・全国大会と自分なりのベストで戦えたのではないかと思います。

最後に、部活動がないながらも大会に出場し、全国大会という大きな舞台に進むことができたのは、米原先生をはじめとする先生方のサポート、応援があったからです。本当にありがとうございました。

新任教諭（令和3年4月採用）紹介

あらい　たかのり
新井　公章
（社 会）

ひろた　ともや
廣田　朋也
（英 語）

おかだ　ひろし
岡田　博史
（社 会）

こんどう　ひとし
近藤　均
（国 語）

退任教諭（令和4年3月末）紹介

おおこうち　のぶよ
大河内　信代
（家 庭）
平成6年4月～在職

平成6年より家庭科が男子高校生も必修科目となり、名城大学附属高等学校でも家庭科が始まりました。私自身が男子校での勤務が初めてということもあり、全てが手探りの状態。当時の校長先生に「身体に良くて美味しいものを調理実習でたくさん作らせてください」と言われました。身体に良い… ＋ 美味しい… ⇒ おにぎりと味噌汁に決めました。以来、毎年第一回調理実習は、おにぎりと味噌汁です。

今この同窓会誌を読んでくださっている方の中にも実習を経験された方がいらっしゃるのではないでしょうか。この実習を「名城大学附属高等学校の伝統にする！」と思っていた矢先に、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度は実施できず、無念の思いでした。今年度は限られたクラスではありますが、おにぎりと味噌汁を繋げることができ、退職の年に嬉しい限りです。

どんなご挨拶文にしようかと迷いましたが、家庭科といえば調理の印象が強いと考えて、おにぎりと味噌汁　にしました。多くの先生方に支えられて、実りある年月を過ごすことができました。ありがとうございました。

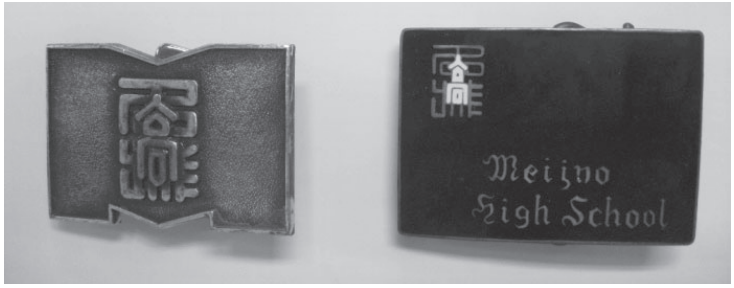
物　故　者（令和3年1月～12月）

ここに謹んで哀悼の意を表しますと共に、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

氏　　名	逝去年月日	享　年	教　科	在 職 期 間
鷲尾　弘範	令和3年10月27日	93歳	国語 社会	昭和27年4月～平成4年3月 （教 頭 在 任：昭和61年4月～平成3年3月） （副校長在任：平成3年4月～平成4年3月）

「名城大学附属高等学校ゆかりの物品」寄贈のお願い

同窓会事務局では、令和8年の開学100周年に向け本校ゆかりの物品の収集を始めました。ご家庭の押入れ等で眠っている附属高校ゆかりの物品がありましたら、ぜひお知らせください。



◀写真は、諏訪宏和先生（第13回生　昭和36年3月機械科卒業　平成16年3月退職）から寄贈いただいた卒業記念品のベルト用バックルです。
写真左は1962年のもの、右は1959年定時制のものです。

「名城大学教育振興資金-名城サポーターズ募金-」のご案内

世界中に蔓延している新しく現れたウイルスとどう対峙するか、同窓生の皆さま方も苦悩しておられると思います。附属高校の生徒達も、まさに“青春”という高校生活に様々な規制がかかり、修学旅行の中止や文化祭等行事の縮小など、未曾有の苦境を強いられております。

しかしながら、生徒達は、いずれ日常が戻ることを信じて、新しい変化を受け入れ、新たなチャレンジを重ねて、困難を乗り越えつつ、勉学も、部活動も、“夢”を実現するために突き進んでもおります。

学校法人名城大学では、このような生徒達を応援するために、「名城大学教育振興資金-名城サポーターズ募金-」事業を展開しております。この寄付金の使途の一つとして「附属高等学校の教育活動充実」がございますので、お申込みいただく際は、こちらをご指定ください。

詳細については、下記の名城大学ホームページをご覧いただくか、お電話にて学校法人名城大学【渉外部052-838-2066】へお問合せください。インターネットもしくは書面で、お申込みいただけます。

ぜひ多くの同窓生の皆さま方に、趣旨をご理解いただき、母校生徒達の“夢”の実現に向け、お力添えいただきますようお願いいたします。

https://www.meijo-u.ac.jp/about/fund/fund01/

一口の金額は特に定めておりません。　金額の多寡にかかわらずありがたくお受けいたします。

学校法人名城大学へのご寄付については、税制上の優遇措置があります。